

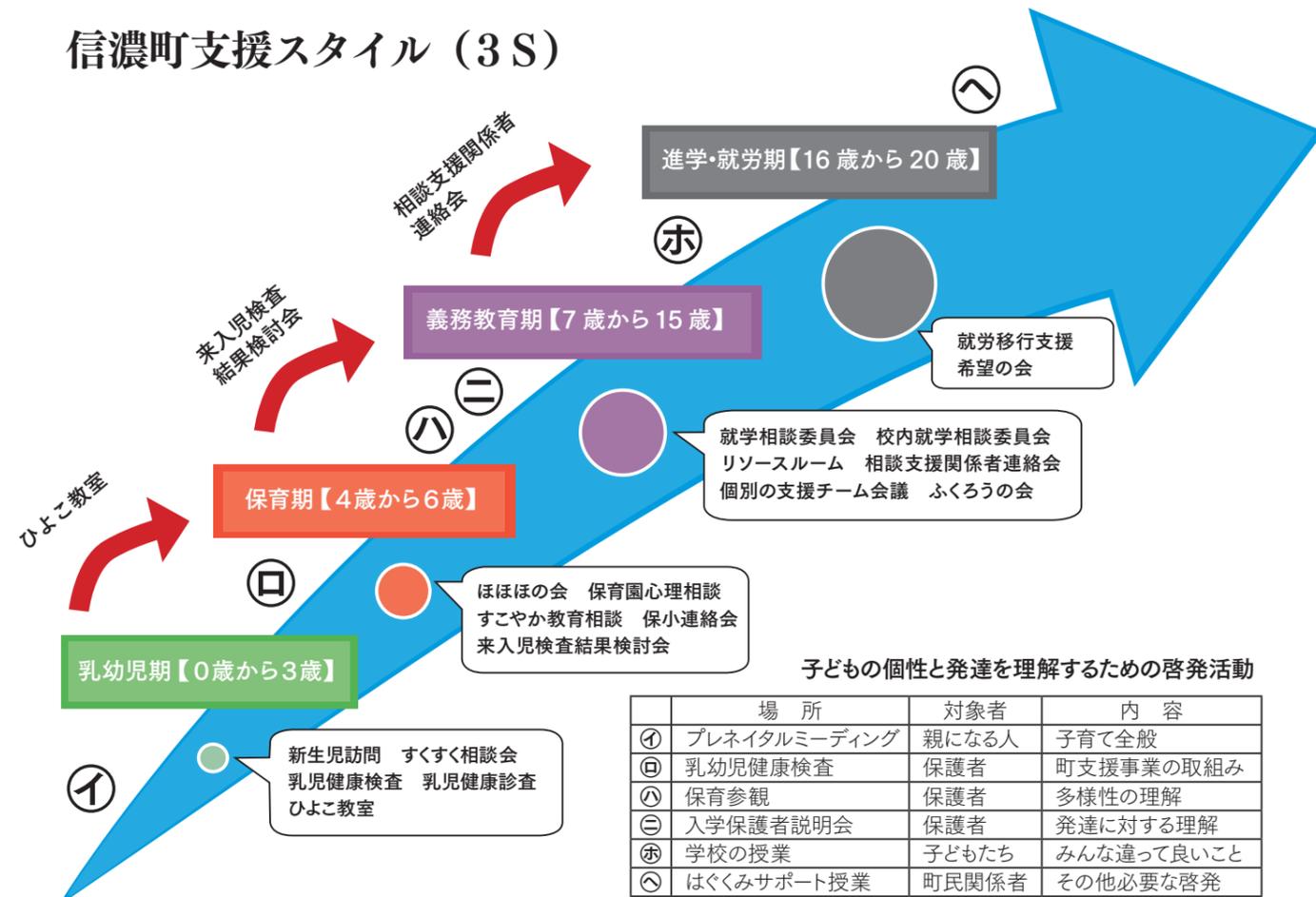
乳幼児期から就労まで
一貫して支援

『保学連携による子育て支援プラン』

安心して誰もが 子育てできる町を目指して

保育園と学校の連携を強化して、更なる教育の充実と、乳幼児期から就労まで一貫した子育て支援をするために、「保学連携による子育て支援プラン」を作成しました。
安心して誰もが子育てできる安住の町を目指して、平成26年度からプランを実行していきます。

信濃町支援スタイル（3S）



	場所	対象者	内容
①	プレネイタルミーディング	親になる人	子育て全般
②	乳幼児健康検査	保護者	町支援事業の取り組み
③	保育参観	保護者	多様性の理解
④	入学保護者説明会	保護者	発達に対する理解
⑤	学校の授業	子どもたち	みんな違って良いこと
⑥	はぐくみサポート授業	町民関係者	その他必要な啓発

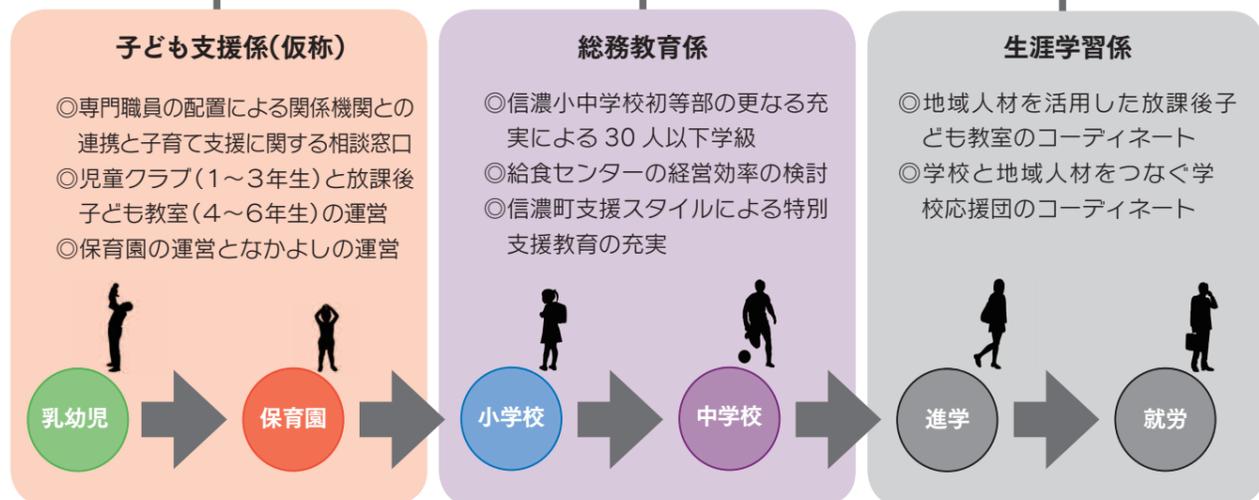
つなぐ支援3つの要素



「モノ」によるつなぎは、共通の様式による引継書類の作成や、各関係機関が保存をしている記録を相互に利用するなど、書類による確実なつなぎを行います。「ヒト」によるつなぎは、子どもの成長に寄り添いながら、関係機関をつなぐパイプ役となる専門職員

の配置や、県と民間などの外部機関の専門家と連携するなど、人による適切なつなぎを行います。「コト」によるつなぎは、教育委員会が保育園を管轄することによる、保育と教育の一体的な連携の強化や、子ども支援係（仮称）を新設し、子育てに係る相談窓口の一本化をするなど、組織による柔軟なつなぎを行います。

自立のための準備期間を教育委員会が一貫してサポート



保 保育園から信濃小中学校への就学が円滑になるよう、保学連携の強化と一貫した支援を行うために、教育委員会事務局に子ども支援係（仮称）を新設します。子どもの成長に寄り添いながら医療、保健、保育、教育をつなぐ専門職員を配置したり、子どもの放課後の居場所づくりとして、1年生から3年生を対象とした児童クラブや4年生から6年生を対象とした放課後子ども教室を運営したり、子育てに関する窓口を一本化します。

また、この他にも信濃小中学校の初等部教育（1年生から4年生）の更なる充実による30人以下学級。信濃町支援スタイルによる就学相談事業と特別支援教育の充実。指導主事を配置し、地域人材を活用した放課後子ども教室や、しなの学校応援団（登録していただいた地域の方に、信濃小中学校のクラブ活動、専門部活動、学習活動等の協力をしていた団体）のコーディネートなど、教育委員会による一貫した子育て支援を行います。

安心して誰もが、子育てできる安住の町を目指して、平成26年度から「保学連携による子育て支援プラン」を実行していきます。

平 成20年4月に保育所保育指針が改正され、小学校との連携の推進に関する内容が盛り込まれました。また小学校学習指導要領でも保育所との連携が明記され、乳幼児期から小学校教育の円滑な接続について求められるようになりました。

そこで、子育てに関係している学校、保育園、病院、保健福祉などの関係者で構成する「信濃町相談支援関係者連絡会」を立ち上げ、子育て支援の更なる充実についての検討を進めてきました。平成25年10月15日、信濃町支援スタイル（3S）が示され、教育委員会では、この支援スタイルを中心とした「保学連携による子育て支援プラン」を作成しました。

これまでは、各担当が独立して支援事業を行っていましたが、乳幼児期から就労へと系統立てて、一貫した支援にするために、関係機関の連携（横のつなぎ）を強化しながら、子どもの成長とともに移行する各事業を、それぞれの関係者が意識（縦のつなぎ）することによって、一貫した支援を行うものです。また、一人ひとりの子どもの個性と発達についての啓発や研修を行うことで、子育てに関する不安の解消や発達障害についての正しい理解へつながります。